

## 『基金訓練合宿』へ、問い合わせ、応募者が殺到！

基金訓練・合宿型若者自立プログラム科第2期生（定員10名）の募集が、1月11日から開始された。募集に先立って北海道新聞（全道版）、しんぶん赤旗（北海道・東北のページ）などで取り上げていただき、ビバのHPやポスターも余市町内には各所に張らせていただいたお陰か、道内はもちろん、秋田県などからも問い合わせが引き続いている。

当初募集期間が1週間、1月21日で締め切りだったので、定員割れの恐れもあると考え、最終の機会なので、特に経済的事情で、これまでビバハウスに来たくても来れなかった若者にもチャンスをと考えて、北海道労働局に延期を申請し、28日までに期限を延長して頂いた。ところがまさに延長が認められた21日に、どっと問い合わせが集中し、10名を越える応募者となった。

基金訓練合宿3月末廃止の条件は、3月末までに認定を得ること、コースは6月末までにスタートしていることなので、せっかく応募して来た若者をひとりでも排除しないために、この条件に合わせた、最終コース（第3期生10名）の可能性も検討することにして、昨日から、谷口事務長が全力で書類の作成に入った。

応募者のうちには、最長約15年間の引きこもり暦の若者もいる。彼は現在ビバハウスメンバーの一人だが、ビバ滞在もまだ2週間ほどしか経っていない。しかし、この間毎日のグループワークのすべてに参加し、アルバイトの屋根の雪下ろしにも加わり、生まれて初めてのアルバイト代も手にした。彼は自ら、1昨日、「僕も基金訓練に入れるでしょうか？」と申し出てきた。

札幌のある青年は、この3年間で3回ほどご両親とビバを尋ねては来ていたが、ビバに行くとは言わなかった。今回道新の記事を母親が見て、本人に説明すると、「参加したい」といった。昨日、札幌北ハローワークで手続きをしたビバに対する応募用紙が送られてきた。

北星余市高を卒業後、ビバハウスで約1年半の生活の後、札幌の共同作業所で、パウンドケーキ作りの技術を習得した青年は、将来この技術を生かして自活したいと、基金訓練を決意した。技術ばかりでなく、コミュニケーション能力、パソコンなどの事務能力も自立のためには、身につけなければならないと分かったからだ。

うれしいことに今回も1期生に続いて、郡山市から女性メンバーが北星余市高卒業生のお母さんの宗像さんがやっている、ホットスペースR. から参加してくれることになった。サポステ旭川、札幌からも参加の問い合わせがある。